

学 校 教 育 目 標	仲良く 賢く たくましく ～瞳を輝かせ 希望をもって活動する子の育成～
目 指 す 学 校 像	みんなでつくる みんなで育てる みんなの大和田小学校

重 点 目 標	1 学習意欲を育む授業づくりと基礎学力向上（学びの質の向上に関する取組） 2 豊かな人間性の育成（子どもの発達や心のサポートに関する取組） 3 地域とともにある学校づくり・地域コミュニティの核となる学校づくり（地域とともにある学校づくりに関する取組） 4 安心・安全な教育環境の整備（教育環境の整備に関する取組） 5 教職員の資質向上と働き方改革の（教職員のキャリア形成に関する取組）
---------	--

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	＜現状＞ ○学力や学びに向かう姿勢等に係る児童の実態について分析を進めているところである。 ○デジタル学習基盤を活用した「学び方」「教え方」改革の推進に向け、研修体制等を整えている。 ＜課題＞ ○児童の実態に即した授業づくり及び学校課題研究を推進する。 ○児童の学びを広げる・深める学校施設の有効活用を模索する。	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進及び基礎学力向上に向けた授業改善	①さいたま市学習状況調査等の結果を受け、基礎学力向上に向けた手立て等を明らかにし、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を軸とした授業改善に取り組む。 ②カリキュラムマネジメントを通して、教科横断的・探究的な学びと地域の教育資源の効果的活用を推進する。 ③大和田小学校学力向上研修を実施し、児童の実態に即した授業づくりについての理解を深める。	②学校評価の学習に係る質問において、児童と保護者の肯定的回答が90%以上となったか。 ②教職員自己評価において、カリキュラムマネジメントに係る肯定的評価が90%以上となったか。 ③大和田小学校学力向上研修を実施し、個々の授業改善に資することができたか。					
			①教室後方ホワイトボードや廊下スペース等を活用しながら、どこでも誰とでも学習を深め・広げることができる環境を整える。	①教職員自己評価において、学校施設の有効活用に係る質問の肯定的評価が80%以上となったか。					
2	＜現状＞ ○新設校に転学し、交友関係の変化から学校生活に不安を抱えている児童がいる。 ○児童観察や心と生活のアンケート結果をもとに面談等を実施している。 ＜課題＞ ○児童が安心して生活ができる環境の構築に向けて、児童理解及び組織的に対応・支援する体制を強化する。 ○関係機関や専門職と連携しながら、誰一人取り残さない組織体制の整備を進める。	・児童一人ひとりへのきめ細やかな生徒指導・教育相談に向けた校内体制の充実	①スクールダッシュボードを活用して、児童の状態把握に努めると共に、変化が見られる児童については、積極的に声を掛け情報を共有する。 ②生徒指導等に係る対応は、「事実確認→指導→保護者への連絡」等を迅速に行い、関係機関との連携を密にしながら組織で対応する。	①「おはようメーター」を計画的に活用し指導等に活用することができているか。 ②学校評価の「いじめ・人権教育」に係る肯定的評価が90%いじょうとなったか。 ①②学校評価の相談に係る質問において、児童及び保護者の肯定的回答が90%以上となったか。					
			①欠席状況及び児童観察、アンケート等を受けて積極的にケース会議を実施し、学年、管理職、専門職等、組織的に対応する。 ②Sola る〜む等を有効活用し一人ひとりの特性に即した支援を推進する。	①組織で円滑に情報を共有し、関係機関とも連携しながら適切に対応することができている状態になっているか。 ②Sola る〜むが計画的に運用できている状態になっている。					
3	＜現状＞ ○学校運営協議会の設立に向けた準備を進めているところである。 ○防犯ボランティア等、児童の安全確保に向けた態勢が十分に整っていない。 ＜課題＞ ○学校運営協議会において、学校課題の共有や効果的な協働活動の実施に向けた準備を意図的・計画的に進める。 ○C S の機能等を周知し、児童にエージェンシーと参画意識を育む学校運営協議会を推進する。 ○児童の登下校の見守り体制の強化を図る。	・児童の参画意識を育む児童参画型コミュニティ・スクールの実施	①自分達の学校・地域をよりよくしていくとする視点を大切にした児童参画型コミュニティ・スクールの在り方について研究を進め、実践する。 ②講話朝会等を通して、コミュニティ・スクールの役割や機能等について説明し、児童の理解を深める。	①学校運営協議会において、課題解決のための視点をもち児童が熟議に参加し、協働活動等につなげることができているか。 ②学校評価のコミュニティ・スクールに係る児童への質問で肯定的回答が80%を上回ったか。					
			①コミュにティ・スクールについて、学校日より、懇談会等を通して保護者、地域への一層の周知を図り、協働体制の基盤づくりを推進する。 ②児童の活動の様子や教育活動等について、学校 HP や学校日より等を活用し、積極的に情報を発信する。	①学校評価のコミュニティ・スクールに係る保護者への質問で、肯定的回答が80%とする。 ②学校評価の情報提供についての保護者の肯定的回答「よくあてはまる」を80%以上とする。					
4	＜現状＞ ○施設設備の維持管理及びアレルギー事故防止に向けて体制を整え、組織的に対応することができている。 ＜課題＞ ○安心・安全な環境づくりに向けた取組について凡事徹底を図る。 ○本校施設を、地域の学びの拠点として機能させる。	・安心安全な教育環境の構築に向けた組織的取組の徹底	①施設・設備の点検を組織的・計画的に実施し、異常等が認められた場合は即時対応する。 ②アレルギー対応について、管理職・栄養職員・担任のトリプルチェックを行う等、組織で対応する。 ③避難訓練や交通安全教室等、計画的に実施し、成果や課題を整理する。	①施設・設備に係る安全点検を計画的に実施するとともに、必要に応じて関係機関等と連携し、迅速に対応することができたか。 ②食物アレルギー対応について、組織的に対応することができているか。 ③安全教育に係る取組を計画的且つ適宜迅速に実施することができたか。					
			①市教委・学校運営協議会と連携しながら、地域の施設利用体制を整備する。	①施設利用規約等が整備され、地域の学びの拠点として活用できている状態になっているか。					
5	＜現状＞ ○職員は、熱意をもって業務に取り組んでいる。 ○開校準備や校務分掌の土台作りのために、勤務時間外在校時間が増加している。 ＜課題＞ ○子どもの学びと教師の学びを一体的に捉え、学校課題研究等を通して、教師同士が学び合う場を創出する。 ○キャリア形成の土台をなす「やりがい」と健康確保の土台となる「ゆとり」のある職場環境づくりを推進する。	・キャリア段階に応じた受講奨励等の実施*	①指導力向上等に向け、キャリア段階に応じた受講奨励を行う。 ②推薦研修等について、職員のキャリア段階に応じて声を掛け、受講等を奨励する。	①②職員が、指導力向上等に向けて計画的に研修等を受講することができているか。					
			①目標・目的をもって業務を遂行することができるように、人事評価シートに基づいた業務の進捗状況等を確認する。 ②教師の学びは児童の学びの相似形をキーワードに、教師が学び合う機会を潤沢に設ける。 ③働き方改革を推進し、児童と向き合う時間や自己研鑽の時間を確保する。	①②③職務にやりがいや満足感を感じている教職員の割合が90%を上回ったか。 ②学び合う機会を通して、個々の教授技術を共有することができたか。 ③負担感を感じている職員の割合が80%を下回ったか。					